まなぶ
2022年12月号
No.797

♣ 扉 ちっぽけな心 …… サトータツオ 1
♥ まなぶということ …… 大野和興 2
♠ 詩 いのちの渚に立つ人類 …… 木村 和 4

特集 『賃金、労働および生活』

賃金って、なんだろう …… 足立康次 6
小規模福祉事業所での労働、賃金 …… 小野寺聖一 12
いかに自身を磨き、高く売るか …… 井上尚志 14
賃金は安いし…でも、がんばれる理由 …… 若生英希 16
二刀流 でも業務は終わらない …… 舘洞康範 18
長時間労働の対価さえ受け取れない …… 國友尚未 20
エッセンシャルワーカー 賃金と労働 …… 新井栄三 22
日本のうしお 世界のうしお
物価上昇下の23春闘 「新しい資本主義」の効果は? …… 北村 巌 29
共和党圧勝のはずが どうなるアメリカの外交政策 …… 高橋和夫
第2特集 学校現場は、教育とどう向き合っていくのか …… 阿部智紀 44
職場の法律相談 退職勧奨はどこまで許される …… 海渡雄一 50
憲法 12 憲法改正を巡る問題 …… 北川鑑一 53
経済講座 4 グローバル競争が激化した …… 熊谷重勝 57
誌上学習会『イギリスにおける労働者階級の状態』3
序 説(その2) …… 61
◆キャラバンサライ 38
◆スポーツ時評 40
◆中國観看 42
◆情報BOX 65
◆北から南から 66
◆センターとみなさんをつなぐ 68

カット=野﨑安希子

まなぶということ

継戦能力と食料安保

大野 和興

大軍拡の時代に入りました。防衛費はいまの政治状況を見ていると、とめどなく膨らむことは確実です。新聞を見ると、「敵基地攻撃」はすでに既定事実のように扱われています。わかりやすくいえば〝やられるまえにやれ!〟ということで、つまり先制攻撃論なのですが、このことが憲法違反だという意識すら希薄になってしまっています。

読売新聞が11月に行った世論調査で「日本が防衛力を強化する」に賛成するが68%で、反対の23%を大きく上りました。国民自身が〝気分はもう戦争〟状態に入っているのです。

そして議論はさらに進み、「継戦能力」という新しい概念に政府与党の議論が移っています。敵基地攻撃で先制して戦争の火蓋を切っても、敵もさるもの、すぐに反撃されるだろうから、一度始めた戦争を負けないで長続きさせるためには、その備えをしておく必要があるという議論です。

いまのところ弾薬の輸送、貯蔵など戦争のためのインフラなどが検討課題にあがっている段階ですが、この議論が深まってくると、経済体制、国民の生活のあり方、文化による戦意高揚と、国民の生活や意識にまで拡大することになりかねません。つまり、生活や文化まですべてが戦時体制に組み込まれてしまう懸念があるのです。

いまウクライナ戦争や気候変動の影響で食料品の値上がりがつづくなかで、食料安保を整えよ、37%にまで下がっている自給率をあげよという議論が市民に間にも広がっています。

考えるまでもなく食料は継戦能力のさいたるものです。そして現実には日本の農業生産力は最低にまで落ち込んでいます。「自給」するためには、かつて日本がたどった海外侵略を考えるしかありません。防衛力強化を名目に、すべてが戦時体制化に組み込まれようとしているとき、いま安易に食料安保を叫ぶことの落とし穴に気づくべきでしょう。

(農業記者)